国　語　科　学　習　指　導　案

令和２年２月１３日（木）３校時　（３の２教室）３年２組　指導者　関口　雄基

Ⅰ　単　　元　　３の２ことわざ研究室　（『ことわざについて知ろう』）

Ⅱ　考　　察

1　教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

長い間使われてきたことわざの意味への理解。ことわざを使う技能。

②思考力，判断力，表現力等

「書くこと」において，目的を意識して，伝えたいことを明確にする力。

③学びに向かう力・人間性等

積極的にことわざの意味を知ろうとし，課題に沿って調べたことをまとめて書こうとする態度。

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

［知識及び技能］　（３）
イ　長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。
［思考力，判断力，表現力等］　Ｂ　（１）
ウ　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。

(3) 本単元とプログラミング教育との関連

子どもたちはこれまでに，接続詞や段落相互の関係に着目して説明文における段落の役割について考えてきた。その中で段落ごとに事例がある場合には，読者にとって身近な順で書いたり，事例の形状や大きさの順で書いたりすることから，目的に応じて段落同士に順序性をもたせることで書き手の考えが伝わりやすいことを捉えてきた。

本単元は，レポートの書き方について，事典や科学読み物と比較したり，レポートを書くのに必要な内容を選択したりすることを通して，その特色を捉え，ことわざについて調べたことをレポートにまとめる学習である。レポートは自分の考えを簡潔な文により読みやすく表したものである。主に「動機」「調査方法」「調査結果」「考察」で構成されるが，書き手の目的に応じて選択する事例の内容や順序に違いが生じることもある。そこで本単元では，ことわざについて書かれた例文を段落ごとに分割した短冊や，ことわざについて調べたことを書いた短冊を目的に合わせて選択し，並べ替える学習を行う。これを，意図するレポートを作成するためのアンプラグド型プログラミング学習と捉える。これは中学年で育成を目指す「分けた小さな特徴から必要な特徴を見いだし，組合せをつくる」というプログラミング的思考の育成につながる。そして意図するレポートとなるように短冊を操作し，試行錯誤を繰り返すことにより，意図を具現化するためには順序性をもたせる場面が必要であること（順次処理）への理解をより確かにできる。

Ⅲ　目標及び評価規準

Ⅳ　指導計画　　※Ⅲ・Ⅳについては，指導と評価の計画参照

Ⅴ　本時の学習（５／８時間目）

１　ねらい　　複数の段落カードから必要な段落を選択したり，その順番を考えたりする活動を通して，レポートの組み立て方について理解する。

２　準　備　　レポートの構成に用いる段落カード　ホワイトボード

３　展　開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
１　本時のめあてをつかむ。 ・段落カード同士で内容が似ているものがあるな。必要な段落だけを並び替えて，調べたことわざを報告する文章の組み立てを考えていきたいな。	○レポート作成に向けて段落の要不要や段落相互の順番について考える必要性があるという目的意識をもてるよう，ことわざについて書かれた文章を段落ごとにカード化したものを提示し，必要な段落カードを問いかける。
めあて　必要な段落カードを並び替えて，報告する文章の組み立てを考えよう。	
２　必要な段落カードを選択し，その順番を話し合う。 ・この問いが書かれた段落が一番最初だと思うよ。だって問いは，はじめに書かれているはずだからね。 ・レポートは，調べた結果を伝えるから，結果が書かれた段落が中に必要だよね。 ・なるほど。レポートの場合，はじめは，問いではなく，調べたきっかけが入りそうだな。調べた結果について書かれた段落とつながるからね。調べ方が書かれた段落も２つあるけど，どちらが合うかな。段落のつながりで考えてみよう。 ・音読しても，段落のつながりはよさそうだよ。でも，最後に考えが書かれた段落があった方が全体の流れが分かりやすいな。 ・とても分かりやすい説明を作ることができたよ。分かりやすい説明にするためには，段落の順番が大切なんだね。	○根拠を明確にしながら段落の順次処理に取り組めるよう，マグネットのついた段落カードとホワイトボードをペアに配付し，話し合いながら並べ替えるよう促す。 ○並び替えの根拠として，はじめ・中・終わりに着目して考えられるよう，これまで学んだ文章の組み立て方を問いかける。 ○順次処理の妥当性を検討できるよう，他のペアと順序の理由を交流し合うよう促す。 ○処理と結果とのつながりを考えられるよう，並べ替えと音読とを繰り返し行うよう促す。 ○分かりやすい説明の仕方に対する考えを明確にできるよう，自分たちの組み立て方と「ありの行列」の組み立て方の共通点を問いかける。 評価項目 レポートの目的に応じて，必要な段落の内容や順序を発言したり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント②＞
３　本時の学習の振り返りをする。 ・実際にぼくたちが調べた順番で書くといいな。この順番で書いてみよう。	○学習の成果や課題を実感できるよう，できたことやその理由，これからがんばりたいことを視点に，振り返りを記述するよう促す。

指導と評価の計画（全８時）

単元	３の２ことわざ研究室（『ことわざについて調べよう』）			
目標	調べた内容について，事例を挙げながら説明することができる。【指導事項：Ｂウ】			
評価規準	（①知　・　技）長い間使われてきたことわざの意味を知り，使っている。 （②思・判・表）「書くこと」において，目的を意識して，伝えたいことを明確にしている。 （③主体的態度）積極的にことわざの意味を知ろうとし，学習課題に沿って，調べたことをまとめて書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞
つかむ	1	○知っていることわざを発表し合い，「ことわざやその意味を調べて，ことわざレポートをまとめよう」という学習課題をつかむ。	○ことわざに対する問題意識をもてるよう，ことわざと意味を別々に書いた短冊を用意し，組み合わせる活動を設定する。	◇知っていることわざや，その意味を進んで発表している。＜発言③＞
ふかめる	2	○レポートに書くことわざを調べる。	○言葉の共通点を基にことわざを選べるよう，「同じ種類のことわざ」を観点として提示する。	◇言葉に共通点のあることわざを選び，調べたことわざの意味を記述している。＜学習プリント①＞
	1	○レポートの文章構成について知る。	○レポートの文章構成の特徴について考えることができるよう，「事典」「レポート」「科学読み物」等，様々な文章の目的を比較する機会を設定する。	◇レポートとレポート以外の文章との違いについて発言したり記述したりしている。＜発言・学習プリント②＞
	1	**○レポートの構成を話し合い，決定する。（Ｂ）（本時）**	○レポートに必要な段落の選択ができるよう，不要なものも含め，様々な役割の段落のモデル文が書かれた段落カードを用意する。	◇レポートの目的に応じて，必要な段落の内容や順序を発言したり記述したりしている。＜発言・学習プリント②＞
	2	○レポートを書く。	○まとめ方の見通しをもてるよう，レポートの例を提示する。	◇「調べるきっかけ」「調べた方法」「調べた結果」「まとめ」の構成で記述している。＜レポート②＞
ふりかえる	1	○完成したレポートを読み合い，学習したことを振り返る。	○レポートのよさを伝え合えるよう，「新たに知ったこと」「分かりやすいところ」を観点として提示する。	◇レポートに書かれたことわざとその意味に関わるよさを伝えている。＜学習プリント③＞

Ⅵ　授業を振り返って

【実際の授業の流れと子どもたちの様子】

子どもたちは，ことわざについてのレポートにふさわしい組み立てをつくるため，１０個ある段落カードから，５つを選んで並び替えるという学習の見通しを基に，ペアで話し合いながら活動を進めていった。１０個ある段落カードには「問い」や「調べた結果」など，前時に確認したそれぞれの役割が書かれていた。

まず，１０個のカードを見比べて，「はじめ」にあたりそうな「問い」「調べるきっかけ」や，「終わり」にあたりそうな「考えたこと」「調べた資料」を分けることから始めるペアがいた。子どもたちは，前時に学習したレポートに必要な要素である「自分のしたことが分かるように書く」を満たすように，選んだカードの並び替えを始めた（**写真１**）。すると，子どもたちの多くが「はじめ」に「問い」と「調べるきっかけ」のどちらを選べばよいか迷い始めた。

写真１＜レポートの組み立て方について話し合う様子＞

そこで，教師は「問い」と「きっかけ」の役割の違いに着目するよう促し，「中」にあたる「調べた結果」との整合性を踏まえて考えていくことを助言した（**写真２**）。すると，子どもたちは，「調べた結果」を「中」に決定し，「問い」を選んだ場合と「調べるきっかけ」を選んだ場合をそれぞれ音読することで比較し，妥当性を確かめていった。「『問い』だとその答えになる段落が１つもないよ。」「『調べるきっかけ』が入ると，したことが分かるから，こちらを選ぼう。」などと発言しながらレポートにふさわしい組み立て方を作っていった。

写真２＜役割の違いについて問いかける様子＞

最後に，子どもたちはペアで決めた段落の組み立て方を決定し，台紙に貼付した（**写真３**）。教師がいくつかのペアにその内容と，それらの共通点を問いかけると，子どもは「レポートを分かりやすく書くには，自分がしたことの順番で書くとよい。」などと発表し，まとめた。

写真３ ＜カードを貼付し，組み立て方を決定する様子＞

【実践の改善に向けて】

・段落カードを並べ替えることを順次処理の中心と捉えて学習を展開したが，レポートにふさわしい組み立て方にするための学習の手順こそ順次処理であると捉えておく必要があった。

・本時のめあてを達成するために必要な手順を明示したり，めあての達成に向けた妥当な手順をプログラミング的思考として価値付けたりしていくことで，子どもたちにプログラミング的思考が定着し，汎用性のある資質・能力として活用することができるようになっていくと考える。